

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300175号
法人名	医療法人昌成会
事業所名	グループホーム詩音
所在地	鹿児島県鹿屋市古前城町9番43号 (電話) 0994-44-2255
自己評価作成日	令和2年2月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿屋市の市街地に位置し、交通の便や立地に恵まれた地理に位置しています。施設内の日常生活ではラジオ体操、立位訓練、青竹踏み等の機能訓練、お盆拭きや洗濯物たたみ等の日常生活訓練等を実施、規則正しい日課を過ごしてもらっています。施設内は共同生活ですが利用者様同士協力し合い、職員との信頼関係を構築して楽しい毎日を過ごしてもらっています。施設外活動として、お花見、外食、買い物支援というサービスも実施しており、外部からの慰問や保育園児との交流など楽しい行事も計画しております。特に、医療法人の運営であることから、協力病院として月2回の訪問診療及び居宅療養管理指導を導入しており、入居後の健康管理や急変時の対応も心配なく生活して頂けます。また、近年は終末期の看取り介護も実施しており、最後まで住み慣れたホームでの生活ができるようになりました。職員も資格の取得や研修の実施で資質の向上に取り組み、最高のサービスが提供できるよう研鑽しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「“家族”皆で明るく楽しく協力し助け合い、笑顔で語り合える新しい“家族”としてあなたを支えます！」を理念に掲げ、補足文と共に玄関に掲示しており、毎月の職員会議で理念を振り返る機会を設けている。処遇改善加算を取っていることもあり、今後は職員一人ひとりが明確な目標を持って、日々の介護や支援につなげられるようにしていきたいと考えている。

事業所での様子を家族に報告するため、面会時には必ず、身体状況等近況を説明すると共に、家族の要望や意見を尋ねるようにしている。また、「詩音便り」と計画作成者が作る「利用者情報」を交互に家族に送付することで、日々の様子や活動内容等、近況についてを詳細に報告している。

訪問診療や24時間連絡体制が整えられているため、本人家族の意向により、母体医療機関を利用者全員がかかりつけ医として受診している。また、訪問看護による健康管理も充実しており、本人や家族の安心につながっている。

看取り支援については、これまでも対応してきており、今後も本人や家族の意思確認を十分行った上で支援していく方針である。

高齢化や重度化により、徐々に外出は難しくなっているが、室内ばかりではストレスにつながるため、季節毎の花見や外食に出かける機会を設けるほか、個別に希望する外出先にも担当職員と一緒に出かけ、気分転換を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、運営推進委員、近隣の方々の協力を得ながら、事業の理解と共有を図り、地域の中の事業所として定着化を図る。	玄関の目につく場所に理念を掲示し、毎月の職員会議で理念を振り返っている。自分や自分の家族であったら、どのような支援を望むかを考えながら、理念を共有し、日々実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事への参加を行うとともに、地域の代表の方々と意見を交わしながら日常的な交流を目指している。	事業所主催の敬老会に町内会長や民生委員等が参加するほか、ボランティアや幼稚園児による慰問、中学生の職場体験の受け入れ等行っている。また、地元で食材を購入したり、地域の方から野菜を差し入れてもらうなどの間柄ができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	積極的に地域行事に参加し、住宅地にある関係から近隣との関係構築を重視している。認知症介護についての相談等も積極的に実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議開催し、利用者様サービスの実際評価への取り組みについて話し合いサービス向上に取り組んでいる。	会議には町内会長や民生委員、行政職員等が参加し、利用者の身体状況や活動内容等について説明しているが家族の参加が得られていない。今後は家族が参加できるように会議の内容を工夫するなど、環境を整えたいと管理者は考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と意見交換、情報交換を密に取り、市担当課の指導のもと、訪問時に相談を行っている。	地域包括支援センターや市役所職員、福祉事務所の職員とは、日常的に相談事や書類提出時等に電話や訪問時に意見を交わしている。また、大隅地区介護事業所連絡協議会主催の研修会等、各種研修会でも顔を合わせ、事業所の実情を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働省が定める「身体拘束ゼロの手引き」を参照に、施設内研修の実施、外部研修を取り入れ、介護の実践に取り組んでいる。	年間の研修計画の中に身体拘束について組み込み、毎月の職員会議でも毎回身体拘束をしないケアについて勉強し意見交換をしている。また、ヒヤリハットや事故発生時等その都度話し合いの場を設けるなど再発防止に努めている。夜間の転倒防止のため、センサーマットや人感センサーを設置する場合は、必ず家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づき、定期的に研修を行っている。いかなる時も拘束に繋がらないよう職員とケア会議を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、入社時にオリエンテーションの一環として研修を行うとともに、制度の理解と実践は内部研修などで必要性を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、入居当日に重要事項説明書にのっとり、説明を行っている。解約、改訂の関しても、十分な説明を行い理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との随時面談、ケア会議、家族会などで、意見、要望などを取り入れ、運営に反映させている。	年2回実施する家族会のほか、面会時には職員が必ず身体状況等近況を報告すると共に、家族の意見や要望についても尋ねるようにしている。また、家族が自由に相談や苦情を伝えることができるよう、玄関に相談窓口を掲示するほか、「詩音便り」と「利用者情報」を毎月交互に家族に送付するなど、意見を出しやすいよう工夫をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングに代表者が参加、個人面談は理事・事務長が実施し職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映している。	職員会議や毎日の申し送り時、業務中の会話等で意見を聞くほか、相談事がある時等、随時個別面談を行っている。また、外部の研修に平等に参加できるように調整すると共に、休日取得についても、可能な限り希望する休みが取れるよう勤務シフトを調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の個々の資格や家庭環境を考慮し、給与決定、昇給、勤務形態、処遇条件などを決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市町村、グループホーム協会等の主催する研修会に参加し、その内容を職員で共有すると共に、さらに上を目指すための資格取得を推進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の加入により、ネットワークの構築、研修会を通じての情報の収集、施設間相互関係の構築を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、居宅、医療機関からの情報提供書による把握を行うとともに、本人ご家族との面談を行い、要望希望の確保に努め、利用者の安心安全の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階より、家族、本人の思いを聞き取り、継続した介護ができるようにケアプランを立案し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているニーズを把握し、必要な支援の選定、家族の了解の上で、フォーマル、インフォーマルな支援の協議、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	潜在能力、残存機能を導き出せる支援の選定、日常生活の中での本人のできる役割の発見に努め、相互関係のもとで生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を介護される一方の立場に置かず、本人と家族がいつでも連絡や面会が出来るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、その内容をケアプランに反映させると共に、家族、友人、知人の訪問、馴染みの場所への外出支援に取り組んでいる。	これまでの馴染みの関係を利用者や家族、入居前のケアマネージャー等関係者から情報収集し、馴染みの店や墓参り等に、家族と職員が協力して出かけている。また、友人や知人の面会もあり、お茶を出し、ゆっくりくつろいでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別的援助の中で、役割分担、利用者同士の関係構築のため、レクリエーション等でコミュニケーションが取れるよう、職員が間に入り、相互間の円滑な交流が図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス相談窓口として、管理者が退去後も積極的に相談・支援を行える体制を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントの基本である『利用者本位』を尊重したケアプラン作成に努めている。また、アセスメント実施時には、希望や意向を本人若しくは代弁者として把握に努めている。	入居前に必ず2人で面談に出向き、関係者から詳細に聞き取り、アセスメントにつなげている。入居後も表情や様子から思いを汲み取り、申し送りノートや業務日誌に記録することで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族との面談、情報提供書などを参考に、生活や今までの暮らしの実態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケースカンファレンスを開催し、生活全般の課題や本人の有する能力の把握、共有化を行い、心身の変化時も早急に対応、支援できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または随時のアセスメントにおいて、本人・家族のニーズの抽出、意見の傾聴に努め、各種専門職からの助言を受けながら、チームケアで、サービスの在り方、生活目標を立案、作成に努めている。	本人と家族の意向を基に担当職員の意見や毎月のカンファレンス、定期モニタリングを参考にケアプランを作成している。本人が思いを表現できない場合は、日頃の様子から思いを汲み取り、代弁する形で本人の意向としている。また、意向の変化や身体状況に変化がみられた際には、プランを見直し、現状に即したケアプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にその日の必要とする情報を記録している。その情報をもとにケアカンファレンスを実施し情報の共有や介護支援計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人等を取り巻く環境の変化や多様化するニーズについては、随時相談を受け、サービスの共用化を図り、多岐にわたるサービスの紹介、提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として地域密着を重視し、地域資源の活用や事業自体を地域資源と捉え、本人が心身共に安全で豊かな暮らしが営めるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を行っている。また、かかりつけ医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。	24時間連絡が取れる体制を整えており安心なため、本人、家族の希望により、利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。受診の内容は「居宅療養管理指導」ノートを作成し記録するほか、家族にも把握した内容を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護や看護職員が利用者様の状態を把握し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>事業所と入院先、医療機関等において、情報を共有できるようサマリーを作成し提供している。また、入院先を定期的に訪問し、主治医や看護師より情報提供を受けている。急性期から状態が安定期になり、通院等が可能な場合は、退院支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>当事業所においては、終末期の看取り介護に取り組んでおり、入居当初より終末期に対する考え方の確認を行い、段階に応じた医療支援や介護支援が行えるよう、主治医を含めた家族、関係機関との連携を行っている。</p>	<p>入居時に「重度化対応体制に関わる事業所の指針」を説明し、入居後も重度化等状態に変化が見られた場合は、繰り返し家族に意思を確認している。管理者は、指針や同意書等の書類に関し、法人のグループホーム全体で統一したものにしたと考えており、来年度4月から整備していく予定としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師における初期対応及び応急処置の講習で実践力の向上に努め、緊急時マニュアルを作成、連絡網も整備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>市の非常災害対策を基にマニュアルを作成。</p> <p>年に二回の避難訓練及び、消火訓練を実施している。また、近隣住民との協力体制を整備している。</p>	<p>今年度は消防署立ち会いの訓練を1回、自主訓練を1回実施しており、3月にも自主訓練を行う予定である。備蓄は、飲料水やカップ麺等の食料を準備しており、備品としてカセットコンロや懐中電灯、ヘルメット（各ユニットに1個）を用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間らしい生活を送っていただくために、一人一人の人格を尊重し、優しく丁寧な言葉かけを実践している。	接遇やパーソンセンタードケア、権利擁護等の研修を定期的実施しており、日常の声かけや言葉遣いに気を配ると共に、方言についても、きつくならによう配慮している。入室の際や着替えの取り替えで引き出しを開閉する際には、必ず本人の同意を得てから行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴すると共に、自己決定の尊重に努め、生活習慣、宗教等、本人が大切にしていることを日常に反映できるよう代弁者となり支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく可能な限り自立した日常生活を送れるよう、計画作成担当者が作成する日課を、その時の状態に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の更衣に関しては、可能な限り自己選択して頂き、できない方は、生活歴を反映した衣類を選択し、身だしなみと動きやすさを優先して配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態による食事の提供に努めている。また、季節や行事食の提供、片付けの共同作業にも務めている。	利用者と職員が台拭きやお盆拭き等、食卓の準備を一緒に行い、同じメニューを会話を楽しみながら食べている。切干大根や干し柿作りの際は利用者も包丁を使って取り組むほか、おやつ作りにホットプレートを使うなど楽しく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録管理し、捕食の提供に努めている。疾病に応じ、医師からの指示があった場合は特別食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じた口腔ケアの実施、口腔内の状態に合わせた物品の使用を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の生活パターンやしぐさをキャッチし随時のトイレ誘導。夜間帯においても睡眠を妨げない範囲で排泄支援実施。排泄用品の使用も一人ひとりの意思を尊重したケア用品等を使用している。	「検温記録」表に排泄チェック項目があり、バイタルと共に記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。日中は容量の小さいパットを使用してこまめにトイレ誘導を行い、夜間は容量の大きなパットを使用して、覚醒時等タイミングを見計らい、パット交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便の確認をしている。1日必要量の水分確保や繊維の多い食事を提供し、便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴の機会を設けている。本人の要望の入浴方法、時間の配慮、季節に応じた入浴を実施し、入浴を楽しみの一つとしている。	基本的には週3回の入浴日としているが、汚染時や希望があればいつでも入浴は可能である。入浴を楽しめるよう、ゆず湯を提供している。入浴前にお茶を飲み、入浴後は各種ジュースを取り揃え、好みのものを飲むことができ楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の把握による日課の作成で日常生活を支援。また、その日の体調や感じた思いに添った支援を行い、自由に過ごしていただけるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を受け、専門的アドバイスの基に、服薬支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所で企画、実施するレクその他、外部ボランティアによる慰問、趣味や生きがいを考慮した活動の実施の他、一人ひとりが有する能力を生かした役割を担って頂き、日常生活を楽しんでいただけるよう支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事として地域の行事参加、家族との外出については、随時で対応している。	年間行事計画に、季節毎の花見や外食、初詣等の行事を組み込み、母体医療機関からワゴン車を借りて出かけるほか、担当職員が個別に利用者の行きたいところに連れて行っている。また、日常的にテラスで日向ぼっこをしたり、洗濯物干しを職員と一緒にやるなど、こまめに外気浴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の了解のもと、自己管理によるお小遣い等の所持を推奨している。必要に応じ買い物と一緒に掛ける買い物支援も行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の希望があるときは電話をしたり、電話の取次ぎなども行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間が利用者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮し、居心地良く暮らせるようにしている。</p>	<p>2階建ての構造になっており、エレベーターが設置されている。リビングには季節行事の写真が掲示され、玄関には職員の顔写真も掲示してある。採光も十分であり、こまめな換気や掃除の徹底など衛生面にも配慮している。浴室は広く、安全に移動できるようシャワーキャリーも用意されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた空間であるが、その日、その時に過ごしたい場所でゆっくりと寛いでいただけるよう、空間の確保に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物や、好みの物を活かして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	エアコンにタンス、洗面台、電動ベッドが備え付けられており、テレビや仏壇等、これまで自宅で使っていた馴染みの品を自由に持ち込み、居心地良く過ごせるよう動線に配慮して設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができる事や分かる事を活かして、安全かつできるだけ自立して生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない